

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	第1回姫路市教育振興基本計画審議会
2 開催日時	令和元年6月26日（水曜日） 14時00分～16時02分
3 開催場所	姫路市総合福祉会館 5階 第1会議室
4 出席者	（出席者）姫路市教育振興基本計画審議会委員15名 （事務局）教育長、教育次長、教育総務部長、学校教育部長、生涯学習部長 総務課長、教育企画課長、学校指導課長、健康教育課長、人権教育 課長、教育研修課長、育成支援課長、生涯学習課長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人0名
6 次第	<ol style="list-style-type: none">1 開 会2 挨拶3 委員委嘱4 委員紹介5 審議会概要説明6 会長・副会長選出7 諮 問8 議 事<ol style="list-style-type: none">(1) 第2期「姫路市教育振興基本計画」の策定方針等について(2) 姫路の教育の成果と課題について9 連絡事項10 閉 会

7 会議の要点内容

以下のとおり

事務局	1 開会 第1回姫路市教育振興基本計画審議会を開会する。
教育長	2 挨拶 委員の皆様においては、御多用の中、第1回姫路市教育振興基本計画審議会に御出席いただき感謝する。 姫路市教育委員会は、平成27年3月に、平成31年度までの5年間を計画期間とする「姫路市教育振興基本計画」を策定し、「ふるさと姫路の未来をひらく人づくり」を基本理念として、学校教育や社会教育に関する施策に取り組んできた。 遠くない将来、我が国では、人工知能(AI)、ビッグデータの活用など技術革新の急速な進展により、Society5.0と言われる超スマート社会の到来とともに、医学の進歩などにより、人生100年時代の到来が予想されている。 また、学校教育現場では、子供たちの語彙力や読解力の低下、いじめの重大事態や児童虐待相談対応件数の増加などの課題への対応が求められており、地域社会においても、一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題、人と人とのつながりの希薄化による社会的孤立の拡大などの課題に直面している。 このような中、次の5年間の本市教育の方向性を示すものとして、社会の変化を見据えながら、いわゆる「流行」に対応しつつ、「不易」とも言える、知・徳・体にわたる「生きる力」を備えた人間の育成を目指した、現行計画を継承しつつ新たな要素を加味した計画を策定したいと考えている。 委員の皆様それぞれのお立場からの知見を基に、お力をお貸しいただきたい。
事務局	3 委員委嘱 4 委員紹介、事務局紹介 5 審議会概要説明 6 会長、副会長の選出

会長挨拶

私は副会長とともに平成26年に第1期の振興計画の策定に携わったが、大げさではなく本当に変化の激しい時代だと思う。5年前から変わったこととして印象的なのは学校のエアコンである。昔、子供は暑い中で鍛えるべきという意見だったが、今はそのような考えは通じない。自然環境の変化もあるが、学校の外の変化もめまぐるしい。ICT、AIが凄まじく、知識基盤社会、知識集約社会になっている。

学校教育も自ずと大きく変わるだろう。Society5.0では、これまでの連続ではなく全く新しい状況になっていく。

今の学校教育は基本が集団生活、先生が個人に合わせてながら指導していくことが基本で、学年があり、学級があるが、Society5.0では個別最適化された学びになる。子供一人一人に適した教材が与えられ、その学習成果もデータで、AIを活用して集約される。興味関心も違う、障害がある方もいる。全てそれらは個性として、その個性に合った学びが提供されるようになる。そうすると同質性を基盤とする学年、学級が必ずしも必要でなくなる。同年齢であっても、興味、成長は様々で、むしろそれぞれに合わせた学級を作ればいいということで、大きく変わっていくだろう。

国もSociety5.0に対応した教育について中央教育審議会（以下、「中教審」という。）に対して、諮問を出し、今、中教審で審議が始まろうとしている。教科担任制もその文脈の中にある。より専門性を高め、学びを深めるということになる。

そのような新しい流れ、政策ということ、この1年の中でどれだけ盛り込まれるか分からないが、今後審議していく中で触れていきたいと思う。よろしく願います。

諮問

7 諮問

会長

(公開可否の決定)

本日の審議会は、異議がなければ公開とするがよいか。(異議なし)

異議なしと認めて公開とする。

会長

8 議事

まず、「議事(1) 第2期「姫路市教育振興基本計画」の策定方針等について」事務局から説明をお願いします。

事務局	<p>議事(1)</p> <p>資料3：第2期「姫路市教育振興基本計画」の策定について</p> <p>資料4：第3期教育振興基本計画（概要）</p> <p>資料5：第3期ひょうご教育創造プラン〔概要版〕</p> <p>資料6：第1期姫路市教育振興基本計画〔概要版〕について説明</p>
会長	<p>事務局から資料3「第2期「姫路市教育振興基本計画」の策定方針等について」説明があったが、皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。</p>
委員	<p>産業界ということで、教育とは違う観点だが、社会の変化の中で、大きな人口減少がある。商工会議所でも姫路市人口の将来推計を分析しているが、人口減少社会を踏まえた教育の在り方というのが一つある。産業界では人手不足がある、人口減少もあるが、東京への人材流出もある。</p> <p>人口減少は日本全体として起きているので、姫路だけ人口が増えることは難しいと思うし、グローバル化等に対応した人材を育てるといえるのはあると思うが、姫路を愛する子供たち、姫路で働く子供たちを育成するような、姫路独自の取組がもう少しあってもいいのではないかと思う。トライやる・ウィークで協力したが、グローリー等に行ってもらって、姫路にこんな企業があるのかと、とても評判が良かった。</p> <p>姫路にどのような産業、仕事があって、どんな人生設計をするのかということも早いうちから教育の中で取り組んでいただければと思う。そういうことを是非とも計画に入れていただきたい。</p>
会長	<p>人口減少にどう対応するか、グローバル化に対応できる人材というだけでなく、地元姫路を発展させる人材を育成することを中心に盛り込まれているかということだと思うが、事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>現在の計画も「ふるさと姫路の未来をひらく人づくり」を基本理念として取り組んでおり、今の委員の御意見を受け、この方向性を今後も進めていくこともひとつの方法かなと思う。</p> <p>また、ふるさとを愛することには、郷土教育もあるので、次回以降で基本理念、目指す子供像や、学校教育、社会教育で事業を検討していく際に視点を取り入れ</p>

	<p>ていければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>教育は今も色々取り組んでいると思うが、人口減少への対応も急務であり、社会の変化に対応していくということであれば、従来の取組だけでは十分ではないように思う。</p>
<p>会長</p>	<p>今おっしゃったことは地方創生ということで国も力を入れてやっているところもあると思うし、自治体もそれぞれの振興、再生、そこに教育政策が重要だということで、力を入れていると思うし、実効性は別の問題だが、今回の計画にも盛り込まれていると思う。ただ、人口の東京集中は変わらないと思う。姫路市教育振興基本計画としては、次回も具体的な事業に入っていく際に検討していけたらと思う。</p> <p>他に御意見は。</p> <p>(意見なし)</p> <p>議事の2 資料7、8を事務局から説明をお願いします。</p>
<p>事務局</p>	<p>資料7：第1期「姫路市教育振興基本計画」の検証</p> <p>資料8：姫路市の現状 の説明</p>
<p>会長</p>	<p>この計画は平成27～31年度までということで、今年度が最終年度になっている。資料6「概要」を見ていただくと、事業がツリーになっていて、関連性が明確になっている。政策は全部で六つ、その具体的な手段に施策があり、さらにそこに事業がある。</p> <p>今回の検証は、その施策ごとにいくつかの主な取組に分けて指標を示す検証があった。次の計画につながる部分なので、皆様から忌憚のない御意見、御質問等をいただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>資料7（第1期検証）の8ページ「いきいきとした生涯学習の実現」、この取組は非常に大切だと思う。そこでもう一つ、不登校が多い、引きこもりが多い、といったところで、学び直しのところがあればと思う。そうすれば、吉田委員の言われていた、姫路を大切に作る気運も開けてくるのではないかと思うし、文部科学省も力を入れている夜間中学校のようなものがあれば、学び直しの場にも光が当たれば、姫路の独自性や姫路の魅力というところで発信できるのではないかと思う。</p>

会長	<p>学び直しというところで、夜間中学については国が力を入れている。その辺、姫路はどうか。</p>
事務局	<p>夜間中学については、姫路市もどう取り組んでいくかを検討しているところである。</p>
会長	<p>他に御意見は。</p>
委員	<p>資料7（第1期検証）7ページの「学びを支える経済的支援の充実」にも触れられているが、6人に1人が貧困状態と言われている。姫路市も色々な施策を行っているが、それ以前の子供たちがいる気がする。不登校の子供にも経済的理由が絡んでいることが多いのではないかと。学力調査にも、親の経済力イコール子供の学力ともいえる結果が出ているが、そういったことにどう対応しているのか気になる。</p> <p>高校の進学を考えたときに、姫路には定時制の高校が二つあるが、第1期の受験の段階からすぐ定員が埋まる、県内でも珍しい状況にある。公立への要望が強い地域だろうと思うし、進学も就業もしない、いわゆる無業者が県内でも姫路はやや多いという気がする。そういった子供への下支え、支援もこれからより大事になってくるかと思う。</p>
会長	<p>福祉の面もあると思うが、事務局から何かあるか。</p>
事務局	<p>国の動向を見ながら就学援助に対応している。</p>
会長	<p>就学援助はしているということだが、委員としては、姫路は厳しいので、もう少し援助をとという御意見だろうか。</p>
委員	<p>彼らがどうしても経済的なところで欠落していく部分にどう支援するかで、底上げにつながっていくという気がしている。</p>
会長	<p>他に御意見は。</p>
委員	<p>私も10年来思っているが、地域の人たちは、地域活性化をどうするのか、ということをもっと強く思っていると思う。それを教育基本計画にどう入れていくのか。計画自</p>

体はまとまっているが、ばらばらに地域の問題が入っている。

この計画を作った5年前との社会状況の違いは、人口減少、東京一極集中、地域が衰退している。そこに対応するキーワード的なものを入れる必要があるのではないかと思う。なかなか位置付けが難しいことではあるが、教育現場でも地域の問題に対応しているということが分かってくるとし、インパクトがあると思う。県のプランには「兵庫人として」ということで入れている。姫路の計画にもメッセージとして入れて発信する必要があるのかなと思う。なかなか難しいと思うが、何か工夫ができればいいなと思う。

会長

施策のレベルにそういう表現を入れて、それについて事業を作っていくということになるだろうか。事務局はどう考えるか、要望にしておくので、検討して欲しい。

事務局

検討する。

委員

5年前、私も計画策定の際に委員だったが、5年前にはなかったが、新たな総合計画にもあると思うのでそれとリンクするという意味でも、計画にKPI※などの目標を入れる必要があると思う。検証する際に、何をもちて検証するのかということになるので、全ての事業にKPIを入れるということではなく、これだけは是非実現したいというもの、最低限これというものにKPIを入れていくと分かりやすいと思う。

※KPI（重要業績評価指標 Key Performance Indicator）目標を達成するための取組の進捗状況を定量的に測定するための指標

会長

次期振興計画にKPI、数値目標というようなものを入れていくということだが、事務局から何かあるか。

事務局

現在の教育振興計画にいわゆるKPIは入っていないが、進捗を管理する教育の事務事業点検評価報告書というものがあり、毎年、現計画に掲載されている事務事業全てを点検評価するものを作っている。その一部に指標を設定し、目標値を決め、検証の参考としている。今回の検証においても、その点検評価の指標を使用している。委員の御意見も踏まえて、今後、計画に指標を入れるかどうかも含めて検討していきたい。

会長

他に御意見は。

では、私から、資料7（第1期検証）について、取組の成果を見ると、大体が右肩上がりだが、気になるところがある。

まず、4ページ〈施策1-3〉の2「小中一貫教育をはじめとする各校種間の連携推進」の(2)取組の成果では、「授業力向上に向けて、小中一貫教育の視点を持ち、つながりのある指導を重視した授業改善が図れていると答える教職員の割合(%)」が目標値に達していないが、あと1年で目標値に届くのかというところ、それから5ページの〈施策1-4〉の2「学校、家庭、地域社会の連携協力による取組」の(2)取組の成果「PTAや地域の人が学校の諸活動(学校の美化など)にボランティアとして参加してくれていると答える学校の割合(%)」も、29年度までは目標値に達していたが、30年度は下がり気味。こういったものがいくつかある。

6ページ〈施策2-1〉の3「読書環境の整備」では、「読書が好きだと答える児童生徒の割合(%)」について、30年度も下がっている。

9ページ〈施策3-2〉の取組の成果は、1は「公民館が実施する教養・地域・文化講座の受講者数」、2は「水族館と姫路科学館の合計入館者数」、3は「図書館の子供向け行事参加者数」だが、目標値に届かないものや、届いていても、徐々に数値が下がってきているものがある。

12ページ〈施策4-2〉の1「青少年団体の育成及び少年団体指導者の養成」では、「少年団体指導者研修会参加者数」が右肩下がりです。30年度になってがくっと下がっている。3「青少年センターの活用等」の「青少年センター利用者数」も下がっている。

14ページ〈施策5-1〉の2「技術の継承」の「匠の技事業の参加者数」も下がっているが、何か理由があるか分かればと思う。

事務局

御指摘いただいている点については、目標値を27年度に決めたが、数値が下がっているものや、恐らく、今年度には目標値に届かないところもあるので、課題として今後の取組に生かしていくべきところであると考えている。

会長

大学は、計画6年間で達成度を評価する。達成しないと大変なことになる。補助金も下がるので、結構厳しいことになるのだが、そういう意味では、この検証を市民の方が見られてどう思うか。数値は仕方がないので、これでよいと思うが、どうしてこうなるかを分析して次につなげることが大切だろう。また、指標の目標設定がその後

	<p>の状況変化で適切ではなかったということが出てくると思う。これは言い訳では決して無く、そういうことが出てきてもいいと思う。ただ、いずれにしても次につなげるという意味で、PDCA がしっかりできるようにしないといけないので、次期計画ではそのあたりも踏まえていきたいと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>資料7（第1期検証）の指標について、分母が何か分からないものもあるように思う。</p> <p>また、夜間中学の話が出ていたが、是非とも実現できたらいいと思う。例えば、整備士になりたい、美容師になりたい、といっても高校卒業だったり、資格が必要だったりする。</p> <p>もっと勉強したい方には通信制のある大学を作ってもらえたらと思う。通信は意外と力がつくので良いと思う。</p>
<p>会長</p>	<p>他にいかがか。できるだけ沢山の方に発言いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>検証にないことを尋ねるが、姉妹都市との交流というところに海外姉妹都市交流とあるが、具体的に人数やどういうことをしているか教えてもらえるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>海外姉妹都市と提携を結び、琴丘高校は毎年、姫路、飾磨高校は隔年で交流している。</p>
<p>委員</p>	<p>補足する。市立高校は、姫路高校、琴丘高校、飾磨高校の3校があり、3校とも夏休み期間中に10日～2週間、語学研修ということで行く。行先は、毎年、琴丘高校はアメリカのフェニックス、姫路高校、飾磨高校はオーストラリアのアデレード、校内の面接により選抜し、今年、姫路高校は8名行く。姫路市から、人数に応じて相当額の補助金をもらって安定的に継続して研修に行っている。</p> <p>なお、研修に行くのは毎年で、先方からは、先ほどの事務局の説明にあったように、隔年で姫路に来る。</p> <p>また、姫路高校の修学旅行は台湾である。韓国に25年連続で行っていたが、今は台湾の高校と姉妹校提携し、人的交流を軸とした修学旅行を行っている。</p>

委員	<p>公民館の役割について、生涯学習の場とコミュニティの場の二つあると思う。資料7（第1期検証）8ページの2（2）取組の成果「公民館が実施する地域講座の受講者数」は増加、9ページの1（2）取組の成果「公民館が実施する教養・地域・文化講座の受講者数」は減少しているが、講座受講者数はコミュニティ全体をみても減少傾向になっている。原因を担当課とも探っていて、魅力ある講座を検討している。全利用者の12%が18歳までの子供たちで、利用が少ないので、そこを増やすように取り組んでいる。</p> <p>公民館はハードが古いので、順に大改修しているが、利用者のほとんどが高齢者なのが現状である。</p>
会長	<p>そのような分析をしていただいていることが、今後につながっていくと思う。参加者数、入館者数といったものは、人口や生産人口が増えない中では厳しいかもしれない。現状より数字を上げることが難しいのではないか。数値が達成されないことは、講座内容の検討はもちろん必要だが、人口の構造変化もあると思うので、そういう分析があってもいいのかなと思う。</p>
委員	<p>学校の先生に期待して聞くが、オープンスクールに行くと、授業風景が私の頃とあまり変わらないと思っていて、資料3ページ〈施策1-2〉の「教職員の資質と実践的指導力の向上」とあるが、具体的に先生たちはどういう指導技術の研修を受けているのか。</p>
委員	<p>高校の現場から答える。この4月に電子黒板が入った。教員に対して、その研修を行っている。絵巻物なども投影でき、分かりやすく説明できるので、格段に生徒の理解度を上げられていると感じている。</p>
事務局	<p>小中学校も、来年度から始まるプログラミング教育に対応した授業の研修を教員に行っていく予定である。</p>
委員	<p>新しい学習指導要領では、教え方についても踏み込んでいる。指導方法も変わっていく。校内研修をしてディスカッションしていく。</p> <p>また、総合教育センターでも充実策があり、夏休み期間を使って先生への研修が行</p>

委員	<p>われている。</p> <p>そして、学校指導課からもスタンダードな指導方法を学校に提示してもらっている。今後も研鑽していきたい。</p> <p>小学校も中学校も同じで、研修成果を子供たちに返していきたい。教科ごとに担当者会を持っているので、研究して各校に広めていきたい。</p> <p>「不易と流行」という言葉が出たが、何十年と同じ教育をして力をつけていく方法と、新しい教育として、対話的で深い学びという授業スタイルが目指されてきている。</p> <p>現場の悩みは、ベテラン層が大量退職し、教師の平均年齢が20代という学校も出てきていることなので、若手に教授技術を手取り足取り教えている。もっと深めていきたい。</p>
事務局	<p>小中一貫校を進めていく上で、つながりといったところを重視した授業改善に取り組んでもらっている。授業参観など小中一緒に行くなど、ブロックで学校に対して改善方法をお伝えしたり、数値ではなかなか現れないけれども改善してきていると思う。</p>
委員	<p>特別支援の立場から。一人一人のニーズに合った教育という話が会長からあったが、学年、学級を取っ払って、一人一人の障害にあわせて行っている。例えばユニバーサルデザインの授業をしていこうとしている。</p> <p>これからの教育は、一斉に同じことをするのではなく、子供が集中できるようなものやっしていこうとしている。県モデル事業として、書写養護学校に籍を置いているが、他の学校にも籍を置いて、いつでも交流していこうという取組で、それが心のバリアフリーにもつながるといことで行っている。このような取組が住みたいまちづくりにもつながっていくのではないかと思う。</p> <p>人が人を支援していく形は大切なので、障害があっても住みやすい、障害のある子も子育てしやすい、教育でもそういうことを目指している。</p>
会長	<p>様々な意見が出たので、意見を踏まえつつ、次回から次期計画について進めていきたい。</p> <p>議事を事務局にお返しする。</p>

事務局	9 連絡事項 次回、第2回審議会は7月30日（火）午後2時からを予定している。
事務局	10 閉会 以上で本日の審議会を終了する。